

幼稚園教育実習の指導について

—幼稚園教育実習での学生の学びの質的向上に向けて—

Guidance for Kindergarten Teaching Practice

—To improve the Quality of Student Learning in Kindergarten Teaching Practice —

説田 ひとみ

Hitomi Setta

〈摘 要〉

平成 29 年 3 月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等が改定(改訂)されたことにより、保育現場での変化が見受けられるようになってきた。それは、保育の中で大切にされてきた子どもの最善の利益を護ること、子ども主体の保育や子どもの自発的な遊びを大切にすることなど、保育の基本を再確認し、理解することである。これからの社会に生きる子どもたちの保育・教育では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が重要とされている。この 3 つの柱は、現在学んでいる学生にとっても当てはまり、学生が実習を行う際にも大切なことである。このような学びを踏まえ、実習への取り組みや態度の把握、実習園の評価、実習生の評価を比較して、実習態度を捉えると共に、教育実習事前事後の改善・充実にに向けた対策を考察する。

(キーワード) 幼稚園教育実習 模擬保育 事前事後指導 自己評価

はじめに

幼稚園教諭を目指した実習は、楽しみでもあるが、不安と緊張も重なり、途中で逃げ出しなくなる学生も少なくはない。実習では、初めて出会う子どもや指導いただく保育者とのコミュニケーション、保育実技であるピアノでの弾き歌い、手遊び、日誌を書くこと、子どもたちとのかかわり方や子どもへの理解などに対応しなければならない。従って、実習においては、部分実習や責任実習への指導計画書の作成、準備など様々なことを行わなければならない。

外見からは「楽しそうに子どもたちと遊んでいるだけ」に見える保育は、実際には組織的、計画的に考え、同時に目の前の子どもと向き合い柔軟かつ臨機応変に対応しなければならない。実習生であっても、日々成長している子どもたちと大事な生活の時間を一緒に過ごすことから、子どもに対して適切な対応が必要となる。事前に計画もなく、子どもの活動を行う

と子どもたちを戸惑わせることに繋がる。何気ない毎日の生活や遊び、絵本や紙芝居を読むといったほんの短い活動であっても、きめ細かな配慮や準備が必要であることに気付けるような実習への取り組みが必要と考える。

また、学生の実習中の態度やマナーについて、学生自身の生活経験の不足や価値観の変化により、授業における学習や生活に対する姿勢や態度にも指導が必要であると感じており、養成校としては、今まで以上に養成課程の重要性を認識して、学生の教育に力を注いでいく必要性を感じ、子どもを取り巻く社会情勢の変化に伴う保育者不足や保育者資質の向上も課題となっている。このような状況の中で、養成校を卒業し社会に巣立っていく学生に対し、養成校の教員として、在学期間中に保育における実践力を身に付け、学生自身が成長を実感し、さらなる課題や目的を持って保育現場で活躍できるような指導ができることを、本研究の目的としたい。

I. 研究テーマと目的

本学では、保育者養成校として、幼稚園教諭Ⅱ種免許、小学校教諭Ⅱ種免許と保育士資格を取得できる。実習は保育者の指導のもと、子どもと直接関わり、子ども理解や保育について学べる貴重な体験である。学生にとっては、幼児と関わることが初めての経験ということも少なくない。実習の機会は保育者を目指す学生にとっては、重要性を秘めている。学生にとって実習は保育者のあるべき姿を実感し、実習の成果を感じるものがほとんどではあるが、実習の段階で心が折れてしまう学生も少なくない。しかしながら、実習後、体験した学びを振り返り、自己点検、自己評価することで、次へのステップに向けての課題を明確化するために、パワーポイントによる報告会を行うなど、事後指導の在り方や、実習を援助する指導の在り方を重要視していく必要がある。

教職コアカリキュラムの幼児教育に関わる内容に、「幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けること」および「模擬保育とその振り返りを通して保育を改善する視点を身に付けている」という目標が挙げられている。学習だけではなく模擬保育などの実践的な学びが必要であり、模擬保育を通して自己評価や他者評価との比較を自己分析して実習に臨むことで、実習での成果に繋げていきたい。

本学では、3年制の短期大学として保育者を養成するにあたり、幼稚園実習は2年生で実施し、幼稚園教育実習(前期)(後期)に分けて行う。事前指導として、学生が実習に向けた目標から ①「実習の目標」②「実習で分かったこと」③「保育者として求められていること」についてレポートにまとめて報告し、発表したものを分析・検討する。その上で、養成校での実習事前事後指導の授業において、その内容を充実させて学生の資質向上になるよう指導している。

II. 研究の背景

学生は幼稚園教諭の免許取得の意志がある。幼児教育は人格形成の基礎である大切なことは理解しているが実際には、具体的に子ども達と関わることに直結することが、分らないのが現状である。そのため学生は、実習事前事後の授業で指導を受けながら準備を行うが、実習をアルバイト感覚で、実習に行けば単位が貰えるという意識のある学生も少なくない。そのため実習の課題にも手を付けず、ここまでは準備をしようと考えていたことも時間が無くなり準備不足のまま実習に行くのが現状となっている学生もいる。学びに行くという意識を、実習(前期)(後期)を継続することも難しい。このような現状で実習に取り組んだ学生は、途中で挫折、辞退といったことになり実習先に迷惑をかけ、自分中心でしか物事が見られないのである。このような現状から、実習事前事後の授業の在り方を考察したい。

1. 背景一本学の幼稚園教育実習事前事後指導について

(1) 本学の幼稚園教育実習事前事後指導

実習は、講義等で学んだ知識、技術を基に、保育の現場で直接子どもとのかかわって、子どもの姿や保育者の指導・援助を体験的に学ぶ貴重な機会であることを認識する。

学生には、保育とは、子どもとのかかわり、子どもを育む営みであることを理解させたい。そのためには、学内での学びだけでは保育者としての力量はつかない事を理解させ、「保育現場で学ぶ」意味をしっかりと認識して実習に臨むことが大切であることを知らせたい。また、現場の先生方は、忙しいなか、後輩を育てるために実習生を受け入れ指導を行ってくださることも意識させたい。実習はこうした先生方に支えられて成り立っていることを自覚し、謙虚な姿勢で学ぶことが大切であることを自覚させたい。また、「免許を取得するため」という消極的な目的で実習に臨むことは、実習園や子どもたちにとってマイナスであるばかりか、実習生自身にとって、学ぶことが限られ実のある実習にならないこと、漫然と実習に臨むのではなく、自分が「学びたい」課題をはっきりさせて臨むことによって、学びは広がり深まることを伝えたい。保育者と子ども、子ども同士の営みから、たくさんの驚きや発見、そして手応えが感じられる体験・学び出るように学生には、指導を行いたい。

(2) 実習の基本目標

保育所、児童福祉施設、幼稚園の保育現場において、子どもや職員や保護者と関わり、それまでに習得した保育に関する知識や技術を適応させたり、応用したりする実地体験を通じて得られる次の4項目を本学の実習の基本目標とする。

- ① 保育者としての基本的な態度を身につける。
- ② 職務に対する認識を深める。
- ③ 保育を進める上で大切な保育力やコミュニケーション力を高める。
- ④ 保育環境や保育の現状を理解する。

(3) 教育実習のねらい

幼稚園における具体的な実習のねらいは、以下の通りとする。

- ① 幼稚園の目的、機能、概要、環境を理解する。
- ② 子どもとの関わりを通して幼児への理解を深める。
- ③ 日々の保育実践の中で子どもと子ども、子どもと保育者の関わりの様子から保育者の役割、幼児教育の実際を理解する。
- ④ 講義や演習を通して学んだ幼児教育の理論や技術を適応させ、応用して、実践力を身につける。
- ⑤ 現任者の指導を受け、記録のとり方、計画の立て方、保育の実際を学ぶ。
- ⑥ 幼稚園における子育て支援の状況、関係機関との連携などについて、説明や見聞きしたことから、理解を深める。

以上の目標・ねらいを保育実習にむけて達成できるように事前事後の指導を行い、学生一人一人が実習中の目的を明確にすることを心がけたい。そして、実習の事前指導として幼稚園教育実習（前期）を実施した。事前指導では、マナーや言葉遣い、立ち振る舞いなど実習生としての基本から、実習記録の書き方、指導計画の作成の仕方を学び、模擬保育を通して指導計画の立て方や子どもへの援助の方法、関わり方を学ぶように学生への指導を行った。幼稚園教育実習（後期）については、（前期）の振り返りから自己評価を行い、今後の課題を明確にした上で、指導計画の作成、必要な教材や取り組み方、模擬保育を行い、学生同士で保育技術や知識を共有しながら学び合えるように指導した。

2. 研究の目的

本研究では、学生自身の事前事後の評価を通して指導の課題を明らかにする。幼稚園教育実習事前事後の学びが、幼稚園教育実習を充実させ、保育の楽しさを味わえるものとするを目的とする。

3. 研究の方法

（1）調査対象

幼稚園教育実習（前期）を終了した2年生22名（男子4名、女子18名）。

自己分析評価について学生には、事前に研究に使用することを伝え許可を得た。

（2）調査方法

幼稚園教育実習事前指導において、実習後の振り返りと自己評価を行う目的でレポートの提出を求めた。自己評価として提出を求めた項目は次の通りである。以下の5項目に対し、評価しやすいように具体的な内容を設けた。

項目1 子ども発達程度を理解することに熱心で、積極的だった。

- ・子どもの観察方法は適切で、観察記録が良く整理されていた。
- ・個々の子どもの特性を、きちんと把握していた。

- ・クラス集団と個々の子どもの関係を、正しく理解できていた。
- ・実習クラスの子どもの発達の特徴を積極的に理解しようとした。
- ・子どもと積極的に関わりながら、発達特性の理解に努力した。

項目2 実習幼稚園の内容と特徴をよく理解した。

- ・幼稚園の教育目的や目標をよく理解した。
- ・幼稚園の運営方式や公務分掌・保育のあり方等についてよく理解した。
- ・施設設備の概要を把握し、園の安全への配慮を確認した。
- ・環境構成に関する園の方針をよく理解した。

項目3 指導計画について学習し、よく理解した。

- ・教育課程と実際の保育との関連について学習し、基本的な内容を理解した。
- ・指導計画の内容と特徴について学習し理解した。
- ・部分実習や全日保育を行い指導計画の作成過程を理解し、また指導に努力した。

項目4 保育の方法・内容についてよく理解した。

- ・実習幼稚園の保育の方法について学習し、理解した。
- ・教育研究に熱心に取り組み、積極的に教材の作成を行った。
- ・幼児が楽しく保育活動に参加できるように配慮し、実践した。

項目5 実習態度が好ましく、教師としての資質は豊かである。

- ・実習に対して意欲的で、取り組みに熱意が感じられた。
- ・実習にあたっては、自分で達成課題を設定しその達成に努力した。
- ・教職員、保護者等に対する姿勢は誠実で、敬意に満ちており、好感が持てた。
- ・実習記録をはじめ各種提出物の作成・提出はスムーズであった。

実習園評価については、「幼稚園教育実習評価票」の評価で行った。

(3) 調査時期

幼稚園教育実習(前期)終了後2週間以内に行った(2022年7月2日)。

(4) 倫理的配慮

成績には一切影響しないこと、この調査内容は研究及び、今後の事前・事後指導の改善に使用することを説明し、研究に使うことの許可を得た。

(5) 分析方法

提出を求めた自己評価、提出を求めた自己分析、幼稚園からの評価、以上3点を分析して考察した。

評価は5段階に分けた。(5:よくできた。4:できた。3:適切な取り組みをした。2:努力が必要。1:取り組みが不十分であった。)

Ⅲ. 結果

1 実習生 S の評価

表 1 学生が実際に行った自己評価及び自己分析

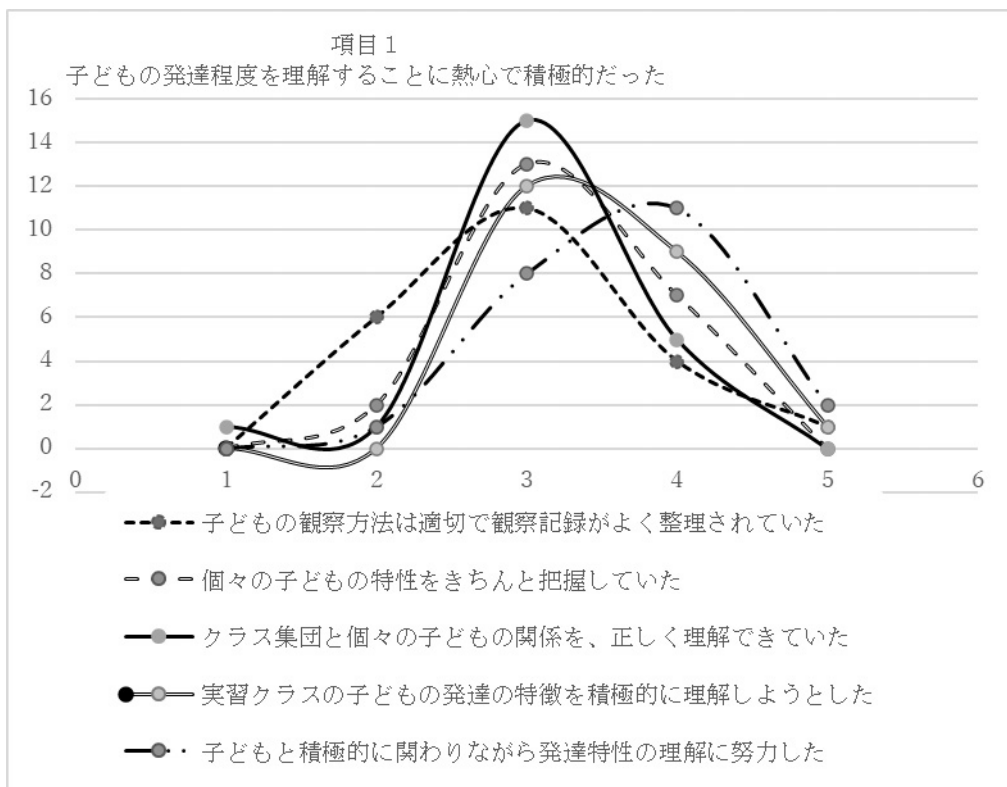
幼稚園教育実習自己評価			
実習前期を終えて自分で評価をしてください。			
氏名	学籍番号		
評価項目	評価内容	各項目の評価	学生自身の自己分析
項目 1 子どもの発達程度を理解することに熱心で、積極的だった。 項目 学生評価 4	・子どもの観察方法は適切で、観察記録がよく整理されていた。 ・個々の子どもの特性を、きちんと把握していた。 ・クラス集団と個々の子どもの関係を、正しく理解できていた。 ・実習クラスの子どもの発達の特徴を積極的に理解しようとした。 ・子どもと積極的に関わりながら、発達特性の理解に努力した。	4	・積極的に子どもとの関わりはできたが記録の書き方を勉強し直す必要があると感じた。具体的に保育者の配慮や行動がかけられるようにしたい。 ・同じ3歳児でも生まれ月によってできることや言葉の発達が違い早生まれの子どもは思ったことが上手く言えないため喧嘩が多いと感じた。
		4	
		3	
		4	
		5	
項目 2 実習幼稚園の内容と特徴をよく理解した。 項目 学生評価 4	・幼稚園の教育目的や目標をよく理解した。 ・幼稚園の運営方式や公務分掌・保育のあり方等について、よく理解した。 ・施設設備の概要を把握し、園の安全への配慮を確認した。 ・環境構成に関する園の方針をよく理解した。	4	・感染対策のため食事の時にシールドを立て黙食での食事であった。また子どもが、帰った後の消毒、水拭き感染対策が徹底されていた。 ・子どもが伸び伸びとしていて、教育目的に沿った保育ができていると感じた。
		4	
		4	
		4	
項目 3 指導計画について学習し、よく理解した。 項目 学生評価 3	・教育課程と実際の保育との関連について学習し、基本的な内容を理解した。 ・指導計画の内容と特徴について学習し理解した。 ・部分実習や全日保育を行い、指導計画の作成過程を理解し、また指導に努力した。	3	・指導計画を作成し実践することの難しさを感じた。計画通りに子どもと関わろうとすると自分の思うようにはいかなかった。このような経験をすることで計画を立てるときには子どもの姿をよく理解しておくことが分かった。次回は模擬保育を行い実習に臨みたい。
		3	
		3	
項目 4・保育の方法・内容について、よく理解した。 項目 学生評価 5	・実習幼稚園の保育の方法について学習し、理解した。 ・教育研究に熱心に取り組み、積極的に教材の作成を行った。 ・幼児が楽しく保育活動に参加できるように配慮し、実践した。	5	・2週目から毎日ペープサート、マジックシアターを行い子ども達が楽しんでくれたことがうれしかった。 手遊び「おおさかうまいもの歌」は評判がよく何度も何度も子ども達と繰り返し行いより楽しさがました。特に「なんでやねん」の言葉が楽しめた。
		5	
		5	
項目 5 実習態度が好ましく、教師としての資質は豊かである	・実習に対して意欲的で、取り組みに熱意が感じられた。 ・実習にあたっては、自分で達成課題を設定しその達成に努力した ・教職員・保護者等に対する姿勢は誠実で、敬意に満ちており、好感が持て	5	・実習の態度として当然遅刻、欠席をしないことではあるが、当然のことができた事は良かったと思った。(実習前から不安の1つであった) 記録や指導計画は、次の日の朝に
		4	
		5	

項目 学生評価 4	た。 ・実習記録をはじめ各種提出物の作成・提出はスムーズであった。	3 必ず提出することできて良かった。 指導を受けた先生方には、いつも感謝して言葉遣いや行動には気を付けるようにした。
----------------------------	--------------------------------------	--

学生 22 名についても上記の表において自己評価を行った。学生は実習後振り返り評価表を基に評価し、次の実習に向けての課題を示した。項目学生評価とは、各項目の具体的な内容を評価し、その点を足した平均を項目学生評価点とする。小数点以下は四捨五入とした。

2 実習生 22 名の自己評価

表 2-1 項目 1 『子どもの発達程度を理解することに熱心で積極的だった』



表内の評価を「取り組みが不十分であった」1・「努力が必要」2

「適切な取り組みをした」3・「できた」4・「よくできた」5とする。

・評価内容「子どもの観察方法は適切で観察記録がよく整理されていた」について

表 1 実習生 S (以下、実習生 S とする) は、4 と評価している。表 2-1 で評価 3 (適切な取り組みをした) と捉えている学生の中で、子どもの観察の方法や観察記録に書けなかったが、園の担当者からの指導により、子どもとの関わりが深まり、教諭の子どもへの指導を観察することができるようになったことで、実習事前指導と結びつき、日誌に記載でき改善された

学生もいる。しかし改善されない学生は、子どもと関わらず、傍観者であり自ら子どもと関わり観察を深めようとしない。指導担当者からも指摘が入っている。このことから子どもの観察をするためには、事前に子どもと関わる機会を作り、子どもとの関わり方、子ども理解を深めておく指導が必要となる。

・評価内容「個々の子どもの特性をきちんと把握していた」について

実習生 S は、4 と評価している。この学生は年齢の発達・特徴について学び実習に臨んでいる。自己評価も高く感じた。表 2－1 で評価 3 と評価している学生は実習に向けて発達・特徴について復讐をして臨んでいる。理解していることにより自信を持って実習に臨み、やり遂げられる喜びに繋がっていると感じた。評価 2 の学生については、消極的であり自信がない。自信をもって実習に臨める指導が必要である。

・評価内容「クラス集団と個々の子どもの関係を、正しく理解できていた」について

実習生 S は、3 と評価している。この項目では、学生全体の評価については合議であった。具体的には、実習前期では、正しく理解するまでに至っていないのが現実である。後期に向けて集団と個々の関係について学びを深めてから実習に臨めるよう指導したい。

・評価内容「実習クラスの子どもの発達の特徴を積極的に理解しようとした」について

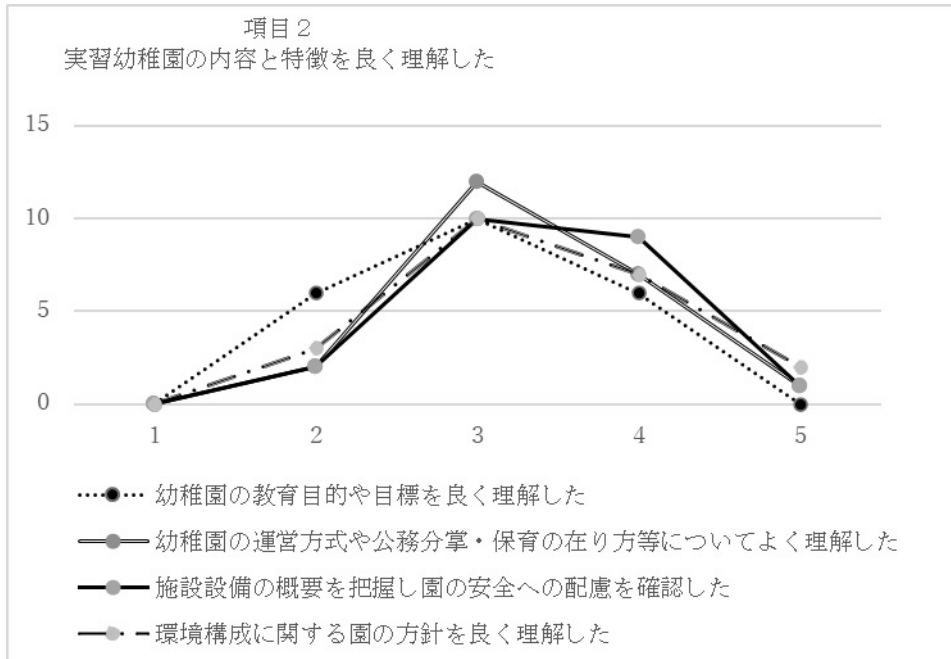
実習生 S は、4 と評価している。どの学生も実習前に発達の特徴については学びなおしているため、この項目については自信を持って評価している。

・評価内容「子どもと積極的に関わりながら発達特性の理解に努力した」について

実習生 S は、5 と評価している。実習に対して学生は不安ではあったが、実習によって子どもと関わり、事前の学習と結びつき自信となった。また、子どもと積極的に関わることで、子どもから「せんせい」と呼ばれる喜びから子どもとの親近感が生まれ、発達の特性の理解が深まった。よって、子どもと信頼関係を築くことができたと評価している。

今後の指導課題としては、観察記録の書き方は勿論、子ども理解を深め、保育者の援助、配慮、留意点などに視点をおきたい。

表 2－2 項目 2『実習幼稚園の内容と特徴を良く理解した』



・評価内容「幼稚園の教育目的や目標をよく理解した」について

実習生 S は、4 と評価している。教育目的・目標は、園のホームページを参考として、学生は事前訪問を行っているが、実際には、理解していない学生がみられる。目標・目的は具体的に示し、どのような学びが必要かを日々の活動や内容に即して指導していきたい。

・評価内容「幼稚園の運営方式や公務分掌・保育の在り方等についてよく理解した」について

実習生 S は、4 と評価している。この項目は、保育者の仕事について理解を深め、保育者としての仕事内容を具体的に探り、後期実習には自分の保育者像が持てるような実習に繋がっていききたい。

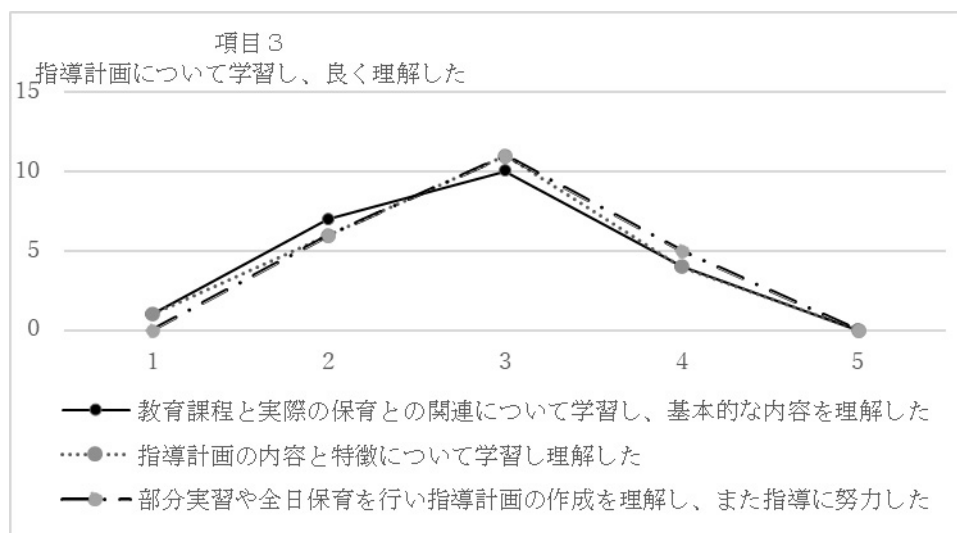
・評価内容「施設設備の概要を把握し園の安全への配慮を確認した」について

実習生 S は、4 と評価している。コロナ禍でコロナ対策が中心となっていることから、施設の概要については、コロナだけではなく、後期実習までには子どもに対しての安全への配慮について具体的に示し、安全な配慮、援助、支援について考察して臨むことができる指導が求められている。

・評価内容「環境構成に関する園の方針を良く理解した」について

実習生 S は、4 と評価している。環境構成は、実習に行く前から学生も課題にして実習に臨んでいる。現場で見た環境構成が子どもへの興味、関心に結びついていない。この点は、どの学生も難しさを実感している。学生は、環境構成が大切であると理解しているが、実際に自分でどの様に環境構成を整えていくかが理解できていないのでこのあたりのことを指導していきたい。

表 2-3 項目 3『指導計画について学習し、よく理解した』



・評価内容「部分実習や全日保育を行い指導計画の作成を理解し、また指導に努力した」について

実習生 S は、3 と評価している。部分実習用に、手遊び、絵本の読み聞かせ、遊び、製作活動などの指導計画を準備した。実際に子どもの前で行うと、学生のイメージと違う難しさを実感したが、子どもたちとの関わりの中で、楽しさを強く感じたと評価している。このように感じた学生は実習前の準備の必要性を感じている。実習生が園で期待され、実習に臨むためには、学生の意識を高められるよう指導していくことが求められる。

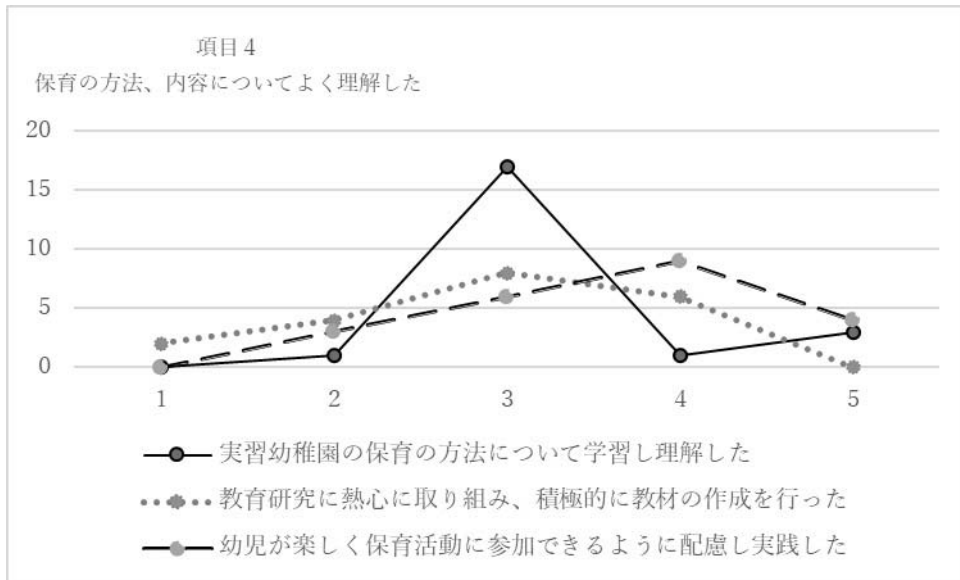
・評価内容「指導計画の内容と特徴について学習し理解した」について

実習生 S は、3 と評価している。指導計画の作成は、実習で活かせる指導計画を授業内で行っている。指導案は、実習担当教諭からの指導を受けるが、採用されず、全く異なる活動を提示された。余裕の無い学生にとっては、実習に自信をなくす。指導計画の問題点を示され納得できない学生と、素直に指導を受け訂正を行える学生とに別れる。学内の学生への指導としては、子どもを理解し、指導計画を立てること、心の余裕をもって臨機応変に対応することを心がけたい。

・評価内容「教育課程と実際の保育との関連について学習し、基本的な内容を理解した」について

実習生 S は、3 と評価している。教育課程の意味について、内容を理解していると答えているが、実際に学生は理解できていない。また、園の教育課程について実際に説明を受けていないのが現状であり、結びつけることは難しいと考えられる。学内では、再度教育課程の授業で見直して実習に臨めるように指導したい。

表 2-4 項目 4『保育の方法、内容についてよく理解した』



・評価内容「実習幼稚園の保育の方法について学習し理解した」について

実習生 S は、評価 5 としている。実習を通して、担当教諭の保育を観察や学ぶことで、子どもへの好感度が高まり、子どもと関わる喜びや楽しさを実感したと評価している。表 2-1 で評価の低い学生は、担当教諭の様子や子どもの様子を観察する余裕がないことが、毎日の実習日誌の振り返りから読みとれる。教諭から日誌の記録について指導を受けるが、改善されず園の評価でも訂正されていないと指摘されている。

このような学生には、模擬保育を強化して実習に臨む指導をしていきたい。

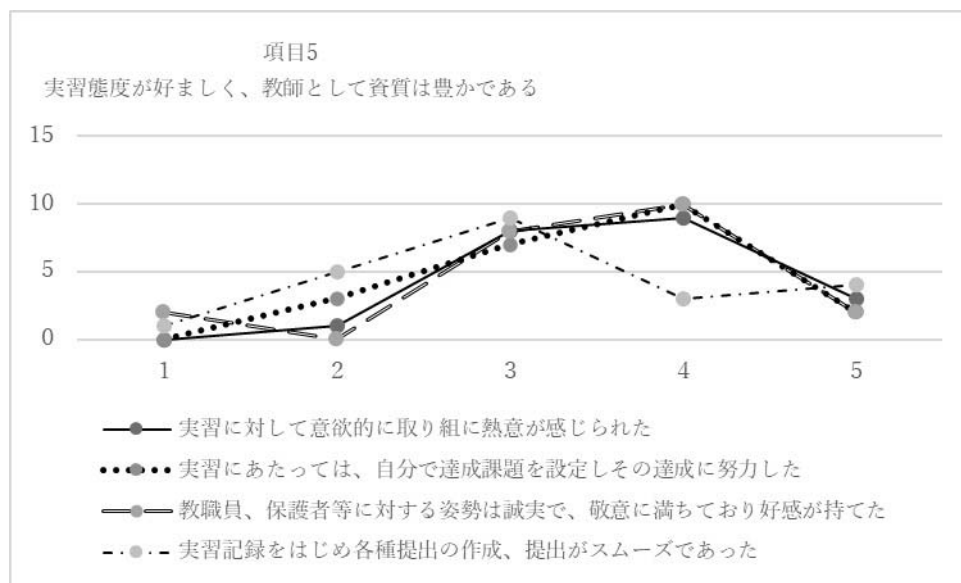
・評価内容「教育研究に熱心に取り組み、積極的に教材の作成を行った」について

実習生 S は、評価 5 としている。事前の準備や模擬保育を行い実習に臨んでいる。自信を持って実習に取り組み、余裕を持ってできた事に繋がっている。一方では、事前準備を行ったが、責任実習では、余裕が持てず、結果は上手く行えなかった。次回の実習について、事前準備の必要性を改めて大切であることを自覚した。学生が自覚したことを実現できるように学内での実習事前事後授業の在り方を考慮したい。

・評価内容「幼児が楽しく保育活動に参加できるように配慮し実践した」について

実習生 S は、評価 5 としている。幼児が楽しく保育活動に参加できるように配慮は行ったが、実際には子どもたちに助けられて楽しく遊ぶことができた。手遊びなども何度か繰り返すことで楽しめたと評価している。子どもを理解するためには、子どもとの関わりは心の余裕が必要であると振り返っている。幼児との楽しい関わりが質の高い保育者を育てていくことにも繋がるのである。

表 2-5 項目 5 『実習態度が好ましく、教師として資質は豊かである』



・評価内容「実習記録をはじめ各種提出の作成、提出がスムーズであった」について

実習生 S は、評価 3 としている。提出物は期限を守ったが、記録の仕上げは明け方まで書いたと評価している。ほとんどの学生が明け方まで日誌を書いている。よって翌日の実習に支障を及ぼしていたと言わざるを得ない。実習を充実するために、日誌の記録はスムーズに記入し、十分な睡眠を確保することが出来るよう指導したい。

・評価内容「教職員、保護者等に対する姿勢は誠実で、敬意に満ちており好感が持てた」について

実習生 S は、評価 5 としている。実習手引きに記載されていることに気を付け実行したことから、最高の評価 5 としている。他の学生も手引に従って実施したと振り返りで報告している。この点では園側との評価と突き合わせて検討していく必要がある。巡回指導教員の報告では高い評価を受けている学生もいるが、評価の低い学生もいることから園側の評価を基に学生の指導を行う必要があるだろう。

・評価内容「実習にあたっては自分で達成課題を設定しその達成に努力した」について

実習生 S は、評価 4 としている。学生は自分自身で課題を達成したと答えている。実習を休まず遅刻しないことで達成したと考えている。ごく当たり前のことであるが、学生にとっては、大変な課題である。学生の評価を認めながらも、次回の実習に臨むために、振り返りからどのようなことに気を付け、行動していくかを考えさせたい。

・評価内容「実習に対して意欲的で取り組みに熱意が感じられた」について

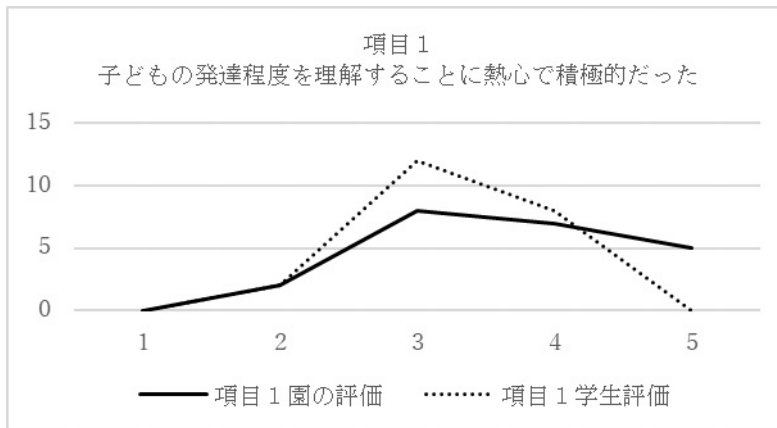
実習生 S は、評価 5 としている。当たり前のことでも普段とは違う生活になることから、学内とは違う担当教諭の指導の違いに戸惑いながら、実習生は緊張で心が引き去られる思いの中で、精一杯頑張ったことを評価している。現場の先生方に助けて頂き頑張ろう！という気持ち(意欲)で実習を終えた、と言っている学生も少なくなかった。怖さを感じていたが

実際には優しい保育者に囲まれて行えたと報告会で発表した学生もいる。中には保育者が、子どもに対する厳しい言葉を発することで、子どもたちのやる気や自信がなくなるのではないかと感じた学生もいた。

今回の実習の自己評価(アンケート)から学生は、実習への不安を持ち、大変な思いで実習記録を書き、部分実習、責任実習をやり遂げたことから、大きく成長し、自信に繋がったことが窺える。

(3) 園の評価と学生の自己評価の比較

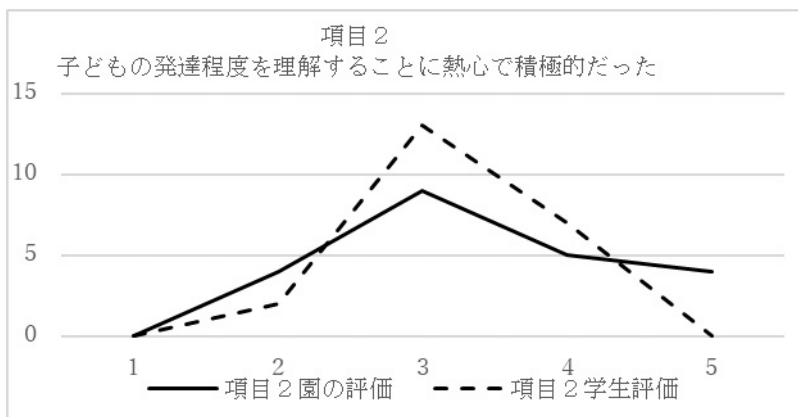
表3-1 項目1『子どもの発達程度を理解することに熱心で積極的だった』



項目1「子どもの発達程度を理解することに熱心で積極的だった」について

学生の評価に比べて園評価では「よくできた」との評価を受けている。学生2名以外は、発達について事前学習を行った成果が出ている。この結果を、学生に伝えることで、やる気や意欲に繋がった。また認められたことで喜びは自信になった。次回の実習に繋がるだろう。

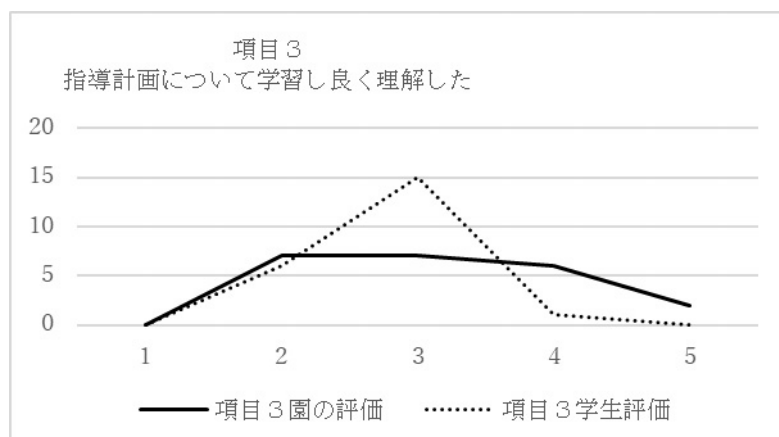
表3-2 項目2『実習幼稚園の内容と特徴を良く理解した』



項目 2 「実習幼稚園の内容と特徴を良く理解した」について

園評価「努力が必要」について学生 4 名の内 2 名に対しては、実習園の内容をどの様に理解したかを確認して学生の指導を行い、実習に対しての安易な気持ちを正した。他 2 名については実習への取り組みについて個別指導を行い、実習に対して自信を持って臨めるように指導した。

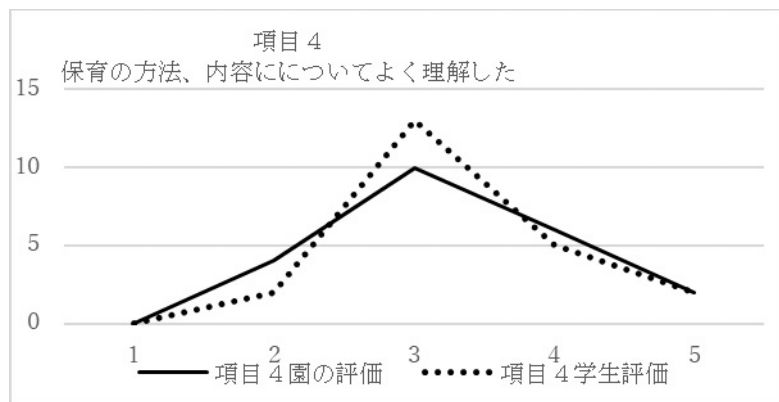
表 3—3 項目 3 『指導計画について学習し良く理解した』



項目 3 「指導計画について学習し理解した」について

園評価「努力が必要」となった学生に対し、指導計画の立て方を再度確認しながら、指導計画を作成し直していったところ、子どもの発達や子ども理解が結びついていかないことが分かった。子ども理解の仕方や関わり方を具体的に示して、理解できるよう次回の実習に取り組めるように指導した。

表 3—4 項目 4 『保育の方法、・内容についてよく理解した』

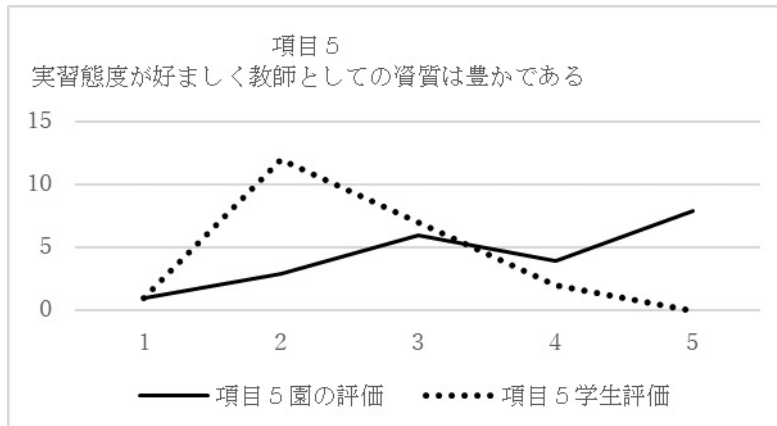


項目 4 「保育の方法・内容について理解した。」について

園評価「努力が必要」と評価された学生 4 名に対して、2 名は保育の方法に対して指導を

受けている。指導されたことに改善が見られなかったことで、評価が「努力が必要」とされている。その 2 名については、日誌を基に改善できなかった内容を学生と共に確認した。どの点が改善されていないかを確認しながら、どの様に行うべきだったかを指導した。学生は、担当教諭の指導が理解できなかったと答えている。学生には、理解できないことは、質問を行い毎日の実習に臨む事の大切さを伝えた。次回の実習は、日誌、指導計画、実習態度について改善するよう指導した。他 2 名も同様に次回の実習に向けて進め方や保育内容・方法について個別指導を行い、模擬保育が実施できるよう計画した。

表 3—5 項目 5『実習態度が好ましく教師としての資質は豊かである』



項目 5「実習態度が好ましく教師としての資質は豊かである」について

8 名が、園の評価 5「よくできた」と評価を受けているのに対し、学生の評価では 1 名であった。園の評価では、希望を持って実習に臨んで欲しいとの評価を頂いた。学生もその気持ちに応えられるように次回の実習に臨んで欲しい。この項目は保育者としてとても大切な項目であるにもかかわらず「努力が必要」「取り組みが不十分であった」に 4 名が評価されている。その 4 名については、保育者として何が求められる内容かを具体的に示して、再度確認することにした。また、学生には、日誌が書けないことが最大の原因になっていることが分かった。学生には、日誌の書き方の指導を行い、短時間で書くための視点の捉え方、指導計画の書き方の指導を個別に行った。笑顔で子どもと関わる表情や声の大きさなど、当たり前のことではあるが、実習現場では普段できていることができない。そのためには、現場の雰囲気を知り慣れることが大切であり、振り返りの中で保育者意識の向上に繋げ、自信を持って実習に臨めるようにしたい。

IV. 考察

アンケート結果や実習日誌、幼稚園の評価を通して今後の幼稚園教育実習事前事後の指導の在り方を考察する。

学生は、実習の取り組みを安易に考えている場面も見えたが、実習をやり遂げようと真剣に取り組んでいる姿も窺がえた。

実習事前指導は、学生を十分に認め、学生が気付いていない良さを引き出し、その力を実習で発揮し実習をやり遂げるための準備を行い、達成感を味わえるように指導したい。学生が余裕を持って実習に臨むために、苦手な点を明確にして改善し、事前準備は何が必要かを意識して実習に臨むことで、やり遂げた実感が自信となると改めて確認した。

今後、実習の取り組みで求められていることは、実習後の振り返りにより保育者としての質の向上のために、自己評価や日誌を基に学生同士で話し合える場を設け、互いの意見交換を行うことが実習への意欲に繋がると考える。

保育者養成校として「実習態度が好ましく教師としての資質は豊かである」については、保育者を育てるにあたり、当たり前のことではあるが、提出物の期限、実習に対して正確に確実に、遅刻しない等、基本的なことを身に付けて実習に臨める環境を用意することが、大切である。学生が笑顔で明るく、積極的にコミュニケーションをとり、学生自身が自分を客観的に捉えられるよう、日々の授業内で学生に意識させていくことが求められている。

学生自身が好ましい教師として認められるためには、自信を持って実習に臨み実習前に、事前準備(手遊び、絵本の読み聞かせ、弾き歌いのレッスン、活動計画案等)や模擬保育を十分に行い、実習に挑むことが必要である。最後に学生は、保育園や幼稚園に行く機会を作り、子どもとの関わりや園の雰囲気慣れしておくことが、実習の成功となり、良い実習体験となる。

おわりに

幼稚園教育要領の改訂に伴い、保育者の資質向上が問われている。幼稚園教育実習を機会に、保育者へのあこがれを高め、保育者になりたい気持ちを目指し、あこがれを実現させるための通過点であることを認識して、学生の指導に当たらなければならない。

学生が実習をやり遂げる喜びを感じ、心の強さ、感性、子どもと向き合うための実習として、成功させるための支援と援助を行いたい。幼稚園免許、保育士資格を取得して、あこがれの保育者を目指していくために、幼稚園教育実習(前期)は重要な鍵となり(後期)実習に対する意欲に繋がる。今後、実習事前事後の授業の在り方や学生の意欲、やり遂げる意志を育て、学生と共に作り上げる授業方法に取り組む必要がある。また、実習事前事後の指導では、学生の一人一人の良さを引き出し、自ら意欲的に実習に臨める指導方法を大切にしなければならないと感じた。

【注】(参考資料)

- (1) 幼稚園教育実習における実習態度 一平成 22 年度 6 月「幼稚園実習」の実習園評価と実習生評価の比較一 篠原祝子 235934235. pdf (core.ac.uk)R. 4. 10. 1

- (2) 幼稚園教育実習の指導のあり方について ―実習園の評価と学生の自己評価との比較から―
KJ00007084759. pdfR. 4. 10. 1